

多摩府中保健所感染症週報

令和5年第40週（10月2日～10月8日）

肺えもん

第40週の傾向

- ・インフルエンザの報告数は、40週も「流行注意基準」である定点当たり10.0人をこえており、流行が続いている。小中学校での集団感染も多く発生しています。
定点医療機関当たり報告数 多摩府中39週23.03→40週27.33 東京都39週16.58→40週16.44
- ・新型コロナウィルスは、40週の定点医療機関あたり報告数は減少しています。
定点医療機関当たり報告数 多摩府中39週8.09→40週3.33 東京都39週7.08→40週3.62
- ・咽頭結膜熱の報告数が増加しています。多摩府中40週1.52 東京都40週2.11
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。多摩府中40週4.48 東京都40週2.21

管内の集団感染の状況

施設	疾患	今週の発生件数
学校・教育機関	インフルエンザ 新型コロナウィルス	47件 5件
児童福祉施設	-	-
高齢者福祉施設	-	-
障害者福祉施設	-	-
医療機関	-	-

※保健所が相談を受けて把握したものを集計しており、実際の数と相違がある可能性があります。

咽頭結膜熱（プール熱）が流行し、都内で警報基準に達しました

都内の小児科定点医療機関からの第40週（10月2日から10月8日まで）における患者報告で、警報レベルにある保健所の管内人口の合計が都全体の人口の30%超となり、感染症法が施行された1999年以来、初めて都全体としての警報レベルに達しました。

咽頭結膜熱の都の警報基準（以下の①または②のどちらかが基準値を超えた場合）

- ① 定点医療機関からの患者報告数が、都全体で警報レベル開始基準（1定点当たり3.0人/週）を超えた場合
- ② 警報レベルにある保健所の管内人口の合計が、東京都全体の人口の30%を超えた場合

◇小児科定点医療機関から報告された咽頭結膜熱の患者数を保健所単位で集計し、1定点当たり3.0人/週を超えると警報開始となり、警報は1.0人/週を下回る（警報終息）まで継続し、警報開始から警報終息までの間の状態を「警報レベル」としています。

◇令和5年第40週（10月2日から10月8日まで）の都内264か所の小児科定点医療機関から報告された定点当たり患者報告数（都内全体）2.11人（/週）となっています。

◇都内の保健所のうち、患者報告数が警報レベルにあるのは、31保健所中9保健所で、管内人口の合計は、東京都全体の33.2%になります。

★注目すべき感染症★

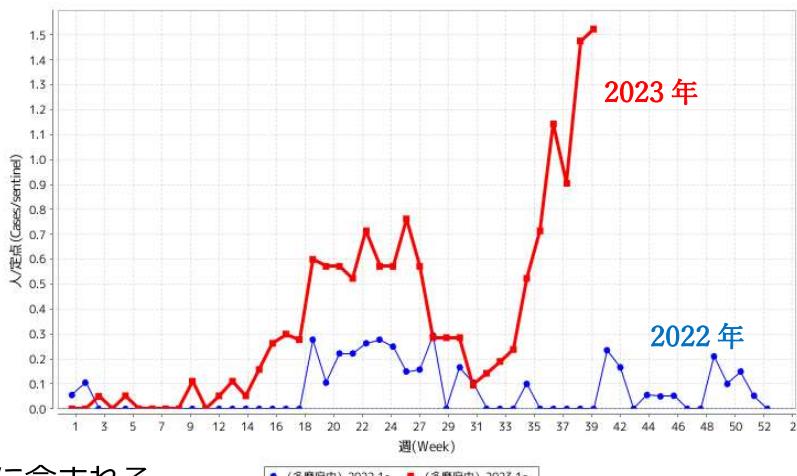
咽頭結膜熱

咽頭結膜熱が増えています

咽頭結膜熱はアデノウイルスを原因とする感染症です。小児に多い病気で6月頃から徐々に流行が始まり、7月～8月にピークを迎えます。近年は冬にも小規模な流行を認めます。潜伏期間は5～7日程度で、感染力が強く、プールや温泉施設の水を介して感染することもあることから、「プール熱」ともよばれます。

○症状

発熱、結膜炎、咽頭炎の3つが主な症状であり、それ以外に頭痛、腹痛、下痢、リンパ節腫脹などがあります。



○感染経路

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染（**飛沫感染**）、あるいはウイルスが付着した手やタオルなど患者が触れたものを介して感染します（**経口・接触感染**）。



○感染予防のポイント

- ・アルコールは効きにくいため、流水と石鹼による手洗いを行いましょう。
- ・咳やくしゃみをする時には、咳エチケットを心掛けましょう。
- ・咳などの症状がある場合は、登園、登校を見合わせるようにしましょう。
- ・症状がおさまった後も、患者の便にはウイルスが含まれているため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前には手洗いを心掛けましょう。
- ・集団生活ではタオルの共用はさけましょう。

対処療法が中心になりますが、
目の症状が強い場合は、
眼科での治療を行います！

<参考>

- ・咽頭結膜熱 PCF (Pharyngoconjunctival fever) | 東京都感染症情報センター
<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/diseasespcf/>
- ・咽頭結膜熱（プール熱）が流行しています！ - 東京都保健医療局
<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/pcf.html>
- ・咽頭結膜熱(プール熱)流行 都内で警報基準に - 東京都
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/10/12/15.html>